

◆河野側の隧道入口へのアクセス
 隧道は通行禁止となっているため、一旦春日野道を離れ国道8号を通り、南側の河野から隧道にアクセスしてみる。
 河野からのアクセスは武生から南下していくと、現在の具谷第一トンネルの直前で西に曲り山中に入る道がある。但し交通量が激しい日中は入口を探しながら右折するのは非常に危険なため、そのまま南下して一旦桜橋を渡り、河野運動公園付近でUターンして北進し、具谷第一トンネルを出たところで左折し、春日野隧道に向かう方が安全である。この左折した山道が春日野道そのものである。

入口には、大きく「この道通行止」と書かれた看板があるため、注意していれば入り口を見逃すことはない。この通行止の意味は、「武生まで車で通り抜けできない」との意味で通行禁止ではないので安心して車で進入していい。

本来なら、夏でも谷川の水で濡れた山路を隧道まで車で行けるのだが、今年には昨年の豪雪による倒木が車の進入を拒んでいる。行けるところまで行って車を乗り捨てるところになるが、この記事が読まれる頃には通行可能になっているかもしれない。距離的にはかなりあるので、こちらはできるだけ車で



北隧道との分岐点(左が旧北隧道)



切り下げられたため、春日野道は一旦ここで切断されている。
 しかし、切断地点付近のJA越前武生の資材・配送センター横の道から再び山中に入ることができ、この後は敦賀まで、通行不能部分はあるものの、春日野道は大体残っており徒歩であれば走破も不可能ではないが、途中には崖崩れ、崩落地点があるため危険である。特に今年は、昨年の豪雪で倒木がひどく、例年なら何とか車で通行できる部分も通行困難な状況となっている。



▲春日野隧道内側



▲春嶽公扁額

←かつての春日野隧道



新・旧桜橋

◆春日野隧道の現況

そして目の前に突然隧道が現れる(冒頭写真参照)。武生側と違って傷みも少なく風格があり、初めて見る人は感動を覚えるだろう。但し、夏は草に覆われて全景がよく見えないため、実訪するならば春先がお勧めである。
 左右は長い翼壁が延びて、見事な姿を今に留めている。入口は馬蹄形の石造りで、内部には煉瓦が使用されており、個々の石材や煉瓦は不揃いであるがどこことなくヨーロッパの雰囲気がある。今でも十分使用に耐えるように見

行かれることをお勧めする。
 やがて、道は先ほど触れた河野から武生に向かう春日野新道と合流して春日野峠に向かうことになる。この辺りからどことなく峠に近い雰囲気となり、ぞくぞくしてくるから不思議である。

この石積は後世のものである。また正面には松平春嶽による「賛化阜財」の扁額が掲げられ、竣工した明治19年12月の日時が記載されている。往時は大変な評判で、小学生の遠足の目的地にもなっていたとのことである。

トンネル前は広場となっており、道の両脇には石積が残っている。但し、この石積は後世のものである。また正面には松平春嶽による「賛化阜財」の扁額が掲げられ、竣工した明治19年12月の日時が記載されている。往時は大変な評判で、小学生の遠足の目的地にもなっていたとのことである。

◆具谷付近と桜橋

いま来た道を具谷第一トンネルまで戻り、そこから敦賀までの道程を紹介しよう。具谷第一トンネルを過ぎると第二トンネルとなるが、当時はこれらのトンネルは当然なく、トンネルの西

側にかつての道が残っている。ついで河野トンネル、桜橋となるが春日野道は河野トンネルの入口直前に西側に入りそのまま谷底に降りていく。この道は残っているが工用車両以外は通行禁止となっている。谷底の川を渡っているのが旧桜橋で距離は短い石造りで見応えのある橋となっている。旧桜橋の真上を現在の桜橋が通っているのだが、眼下にもう一つの桜橋が在ることが知られる人は少ない。旧桜橋のたもとには地元教育委員会によって説明版が最近設置されたので橋の由来を知ることができる。

◆春日野隧道武生側入口

このため全行程を調査するのは今回は断念して、春日野隧道の手前付近から春日野道へアクセスしてみる。県道の湯谷・王子保停車場線の中津原トンネルの西側から春日野道に繋がる道がありこれを利用することにする。トンネルの横手から山中に入っていくと突き当たった三叉路で南北に延びる道が春日野道で、南に進めば春日野隧道、河野方面、北に進めば先ほどの妙法寺となる。但し、北に向かう方面には、おおきな通行止の看板と車止めが置かれている。

この隧道の上が春日野峠で北前船の船主であった河野の右近家などが、明治7年に私財を投入して武生と海岸を結ぶ新道を開削した跡である。おそらく春日野隧道の開削にあたってはこの春日野新道を使って資材を峠まで運んだのであろう。

目的は春日野隧道であるため、南に進路をとる。例年なら車で行けるのだが今年は前述したとおり豪雪で道が荒れており、行けるところまで車を乗り入れ、途中から乗り捨てて徒歩で隧道に向かうことになるが、距離は短く、

少し歩けば隧道が見えてくる。武生側の隧道入口の痛みは激しい。左側の石積みの一部が崩れ落ち、いまにも崩落しそうに見える。天井にも大きな亀裂が入っている。さすがにこの隧道の入口で長時間調査を続ける気分にはなれない雰囲気である。
 この隧道の上が春日野峠で北前船の船主であった河野の右近家などが、明治7年に私財を投入して武生と海岸を結ぶ新道を開削した跡である。おそらく春日野隧道の開削にあたってはこの春日野新道を使って資材を峠まで運んだのであろう。



突き当たり三叉路付近



春日野道現況



春日野隧道武生側入口